

# こんにちははピティナ No.1!

## 下山 進先生、理美子先生の レッスン室をお訪ねして



防音ルームでピアノを弾く西沢綾さん



ピティナこと、社団法人 全日本ピアノ指導者協会は、大勢の方々の御賛助を得て運営されているが、その御厚意を広くお知らせし、さらにピティナの輪を拡げるために Our Music 121 号より「こんにちは ピティナです」インタビューを連載することにした。第一回は、賛助会員・旭硝子株式会社の御紹介で、下山 進・理美子両先生を訪問することとなった。インタビューは「綾の日記」でおなじみの、西沢 綾さん。

西沢 綾さんは、1978年にC級金賞受賞したピティナヤングピアニスト。現在は、東京芸術大学附属高校3年在学中。

国鉄東中野駅より歩いて5分ほどのところにある下山進・理美子先生のお宅をお伺いいたしました。

下山進先生は、千葉敬愛短期大学・文京女子短期大学にお勤めの傍ら、フランス歌曲の研究もなさり、演奏活動をしておられます。又、奥様の理美子先生は、大妻大学（4年制）で家政学を専攻しておられましたが、御卒業後、更に東邦短期大学でピアノを勉強なさいました。理美子先生のお父様が、昭和28年、まだ町にピアノが何台もなかった頃からドイツ製のピアノを買い求められ、それ以来、理美子先生はずっとピアノの勉強を続けて来られたとのこと。そして、一度大学を卒業なさったのち、今度はかねてからのご希望通り、音楽の勉強の方をされたということでした。

両先生のお宅はマンションの2階にあります。明るなお部屋で、ベランダもあり、ここで理美子先生より色々お話を頂きました。以下会話文で報告させていただきます。

—ピアノはいつからお始めになったのですか。

小学校5年生のとき、学校の先生についてははじめました。実家は千住の方にありますが、そこに、父の買ったドイツ製のピアノがあったのです。東邦を卒業して、結婚してしばらくまで、そこに住んでいました。

—その後お住まいはどちらへ？

府中に引越し、それから武蔵境へ、そして次にこのマンションへ、1年半前に越してきました。その間に、1人からはじめたピアノの生徒も、50人位になりました。同じマンションの中に住んでいる人のお子さんなどが来たりして増えたのです。教師をはじめた頃などは、ピアノをやりたいという人が多く、先生の数が足りなくて、1人では持ち切れないくらいだったのです。

—50人とは大変ですね。

生徒の数が増えると、音を出す時間が多くなり、マンションで生活している者は、近所にとても気遣わねばならなくなります。幸い府中にいた頃は、一戸建て、しかも両隣りが学校の先生だったので昼間安心して音を出せました。が…。

—その後武蔵境に移られた時は如何でしたか。

この時マンションに入ることになったので、防音装置をつけようと思いましたが、部屋の工事と平行して、設備を整えようとしたのですが、そうしたらそのマンションを建てた会社が嫌がったのです。どうにか防音の部屋を作りましたが、54年9月当時で200万円位かかりました。でも、安いと思っていました。

—それからこの東中野に引越されたわけですね。

はじめこの部屋には、やはりピアノを入れているお宅が住んでいました。その方は特別防音の処置をせず、この居間（私達がお話をお伺いしている）にアップライトを置いていたんです。そうしたら、上の部屋のお宅が、太鼓でもたたいているのではと思う位によく音がきこえた、と。そこで、私たちは、旭硝子さんの〔組立設置型〕防音ルームを入れてみることにしました。

（ここで私は、御一緒におられた旭硝子株式会社の、田中さんにお聞きしてみました。）

—マンションなどでの音のトラブルは、両隣りよりも、むしろ上や下の部屋の人たちとの間でおきることが多いような気がするのですが、そこには何か特別な理由があるのでしょうか。

やゝ専門的な話になりますが、音は空気中を伝わる「空気伝播音」と固体中を伝わる「固体伝播音」とに分けられます。防音の処置を施すときはこの2つの音の伝わり方を考慮に入れる必要があります。マンションなどの集合住宅の場合、躯体の床、壁、天井はすべてつながっていますので、特にピアノ等の場合鍵盤により叩かれた弦の振動が直接床に伝わり、それが固体伝播音となって下の階のお宅の天井・壁等に伝わってしまうんですね。

—防音ルームを設置されてから、ご近所の方は何かおっしゃっていますか？

実はここへ入る時、周囲の方へ、ピアノの音を鳴らしますから、とお話して、承諾を頂いたんです。防音も入れますから、どんなものかわかりませんが少しは効果があるかも知れない、とつけ加えて。それから近所の方には、お会いする度に、どうですか、とお聞きしていました。皆さんは、音もしいし大丈夫だと言って下さるので

すが、きっと、遠慮もあつてのことだろうと思っていました。ところがある時、私が部屋でレッスン中に、真上のお部屋の方から電話があつたんです。“一寸用事があるのだが今お暇ですか”と。私は“今レッスン中なんですよ”と言いましたら、その方は“全く聴こえませんでした。ご免なさい”と言われました。これでやっと安心したんですよ。

—田中さん、最近の防音技術はそんなに進んでいるんですか。

外に音が洩れるか否かは、まず周囲の方とよく話し合ったかどうかで決まると思うんです。つまり、音はでているのですから、聴こうとすれば、全く聴こえないことはないと思うんですね。人間の耳はものを選択して聴いていますから、例えば地下鉄の走っている最中でも、会話はできる訳です。だから、ピアノの音でも、近所の方が、何とか音を聴き出して文句の一つも言ってやろうか、などと思えば、壁に耳をつけたりもする訳ですよ。しかし、外から手を加えて、物理的に外へ洩れにくくすることは勿論できますけれど。この防音ルームならば、35ホン位音量を下げることは可能だと思います。

—35ホンというと、どんな数字ですか。

ピアノの演奏では普通、95ホン位といわれています。なお、長時間90—100ホンの騒音にさらされていると騒音性の難聴になったりしますが、これは電車が通るとききのガードの下の音ぐらいに相当します。部屋で会話をしたりすると、すぐ、65ホンくらいにあがってしましますが、もし、95ホンのピアノ音が、70ホン程度に下がったとすると、その効果は大きなものだと思います。普通、我々が昼間静かだと思っているときでも、50ホンくらいはでているんですよ。30ホン以下になると、自分の心臓の鼓動がきこえてくる位です。

その後、私とその防音ルームで少し試弾している間、福田先生に、マンションの内や外へ出て頂き、音の漏れ方をみて頂いたが“全く聴こえない、驚いた”と話しておられた。田中さんとお話がしばらく続いた。

—ガラスというのは、厚ければ厚いほどよいのですか？

それよりも、二重ガラスにした方がよいですね。ガラスの厚さが2倍になれば、防音効果は2倍になるかということ、そういうわけでもないで、まず1枚ガラスをはって、空間をつくってからもう1枚はるとよいと思います。その時でも、空間が大きいほど、防音効果は高くなります。大切なのは、外との空気もれのすき間がないようにすることなんです。音はそこからもれてしまいますから。

旭硝子製の防音室は、ガラスのドアに黒い縁のついたもので、まるで、もとの部屋の中の一部のようだ。決して、あとから入れたもの、あるいは、部屋の中に又部屋という風には見えない。ガラスは1枚ばりであるが、ドアとドアのしまり具合もしっかりしているので、音洩れが少ない。

畳の部屋に入っていた、ということも驚きであった。

—防音ルーム内の床が少し高くなっていますね。

先程の話にも出ましたが、ものは1枚だけで接しているよりも、空間がある方が音を伝えにくいので、この床には何枚かのシートが少しづつ空間をもって入っているんですよ。

—冷・暖房などはどうするのですか？

上に、換気扇があって、外の空気とこの防音室内とは同温にできるわけです。この換気扇は独自の防音設計になっていて、吸気と排気用に2つ付いています。中に冷暖房器具は持ち込まなくて良いようになっているんです。

—この防音ルームは面積の割に広いような感じがしますね。いわゆる、圧迫感がないのです。ガラスばりだから外の光が入ってくるためでしょうか。

これは、ガラス部分が、正面と両横側の半分までを占めています。両横まで不透明なもので占めてしまうと狭く感じてしまうかも知れません。

ここで、私自身のことを書くのを許していただくと、私も田舎で、アップライトピアノで練習していた時分、防音の部屋を作ってもらったことがある。それは、既にある部屋の壁に、防音用のものをはり、その上にカーテンをはるといふものであったが、部屋が三畳半しかないのに色々なものをはりつけたものだから、ますます狭くなってしまった。もちろん、換気設備はないので、部屋の空気はすぐに悪くなるし、それではと、換気をすると、せっかく温めておいた部屋なのに、又寒くなってしまう。壁にはもっと明るい色のものをはれば良かった、と今なら思うのだが、その時は、黄土色のワラのようなものを壁一面にはりつけた上に、ありあわせの、えび茶色のようなカーテンをして間にあわせていた。まわりの壁は暗いし、どこもカーテンで覆われていたので、昼間でも、部屋の中はほとんど真暗だった。これは8年前の、田舎での話だが、同じ防音付の部屋でも、このガラスばりの部屋はこんなに違うのか、とってしまった。何よりも、部屋に入ったという圧迫感や、温度の急激な変化がないことが嬉しかった。

—御主人である進先生も、この防音ルームの中で歌っていらつしやるのですか。

そうです。声楽でも、視覚的にやはり広いところで歌う方が、気分的に良いように思います。あまり暗くて狭い所よりは、ガラスの方が明るくて外の光も入ってきます。それから、声楽の練習というのは、ピアノなどの楽器の音よりも、周囲の人には更に違和感を与えるものですから、気をつけていなければなりません。

これは私の考えであるが、ピアノを練習する部屋は、壁が白い目の方がよいと思う。そして、電気も蛍光灯のように白い光の方が好きだ。楽譜の紙質が、特に国内版のものには黄色みがかったものが多いため、あまり壁や電気が黄色だつたりすると目が疲れ易いからである。この旭硝子の防音ルームの内壁は、やはり白色であった。

—田中さん、防音ルームはどうやって部屋に入れるのですか。

個々の部材・部品を部屋にもち込んでから組み立てます。広さにより5つの種類があって、1畳半から、G5のピアノが入るのが一番大きなサイズです。

—こちらのお宅の防音ルームは部屋に対する配置という見方から良い点はありますか。

窓から離して設置しているので、窓からの音洩れが少なくてよいと思います。

—これは楽器専用の防音ルームなのでしょうか。

いいえ、今では、勉強部屋、あるいは寝室に、ということ使っておられる方もあります。

—どうもありがとうございました。

理美子先生、又、田中さん共、色々なことをわかり易く沢山お話し下さいましたので、インタビューという、私にとっては初めての経験でしたが無事終らせて頂きました。防音に関する専門的知識は何もないので、終始、単純なことしか質問できず、その点については残念に思っておりますがご了承下さい。

福田先生、下山先生、田中さん、どうも有難うございました。

防音工事に関するお問合せは

03(944)1581 <sup>いくばら</sup>生原までお願い致します。